


わが国最初期の真空管式電子計算機

登録番号	第00014号		
登録年月日	平成20年10月9日	登録区分	第二種
名称 (型式等)	大阪大学真空管式計算機 一式 (ENIAC型10進演算装置及び本体)		
所在地	大阪府豊中市		
	大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館		
所有者 (管理者)	大阪大学総合学術博物館		
製作者(社)	大阪大学工学部 城研究室		
製作年	1950年代		
選定理由	本機はわが国で最初期に開発された電子計算機である。大阪大学では終戦直後から電子計算機の研究を開始し、1950年に世界初の電子計算機といわれるENIAC型の演算装置を試作した。その延長線上で、真空管式のコンピュータの開発に着手し、本機は1959年に基本動作を確認した。本機は、日本のコンピュータ開発の先鞭をつけただけでなく、その後の研究開発に貢献した日本コンピュータ史上先駆けとなった装置である。		
登録基準	一イ (科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの)		

公開・非公開	公開
写真	 <p>The photograph shows a museum exhibit titled "Dawn of the Computer". The exhibit consists of several large, vertical panels displaying numerous vacuum tubes and electronic components, likely related to the ENIAC computer. The panels are arranged in a row, and the exhibit is housed in a modern, well-lit museum setting. A sign above the panels reads "Dawn of the Computer" and "の黎明期".</p>
その他参考となるべき事項	